

2年1組

2年1組ジャムの旅

～作ってみたい、自分たちだけのジャム～



トマトのジャムって、いちごのジャムみたい

2年1組では、昨年度の「あさがおハウス」の活動を振り返りながら、今年度の活動についてやってみたいことを語り合うところから4月がスタートしました。様々な意見が出る中で「今までやってないことをやってみたい」という意見はすぐに一致しました。もしかしたらすごく昔にやっているかもしれないけれど、自分たちが先生や上級生から聞いたことがないものに挑戦したいという子どもたちの思いがありました。

昨年度のあさがおハウスでの経験や、保護者の方を招待しての活動、特にお月見をして、自分たちで作ったお団子をお家の方と一緒に食べた活動がとても印象深く心に残っている子どもたちが多く、「何か作ったものを食べたい」「お家の人を招待して、自分たちで作ったものを食べて欲しい」という声が多くあがりました。

わたしの地元である白馬村では、食用ほおずきが栽培されており、お料理に使ったり、ジャムとして売られています。子どもたちは、ほおずきを食べることができるということ、それをジャムにしているという事実には驚くと同時に、知らないものはもちろん、知っている食材の中にも知らなかった食べ方があることに改めて気づきました。そのまま食べ、素材を味わうことも素敵ですが、どうせ作るなら、作ったものが別の何かに生まれ変わり、そのままとはまた違った形や味になったものを1組のみんなと味わってみたいと考えました。子どもたちの「何かを作りたい」という思いとも繋がると感じ、ジャムを子どもたちに投げかけました。子どもたちのジャムのイメージの中にはない「トマト」のジャムを味見することをきっかけとし、どんなものがジャムになりそうか、どんなものをジャムにしてみたいか意見を聞いてみました。



トマトジャムを食べた子どもたちからは、おいしいという声が多くあがりましたが、Aさんは「イチゴジャムみたいに甘くておいしい」と、Bさんは「トマトは苦手だけどこれは食べられる」など様々な反応がありました。多くの子どもがジャムの可能性に興味をもち、「作ってみたい」や「〇〇でジャムはできるかな」「ジャムってどうやって作るんだろう」と早速思考を巡らせていました。Cさんがジャムが苦手だということをみんなに伝えると「Cさんがおいしいって思うジャムをみんなで作ろうよ」とDさん。そんな意見が次々と飛び交い、今年はたくさんジャムを作り、おいしいジャムを見つけたいと意見がまとまっていきました。「売っているジャムよりおいしいものを作りたい」「作ったジャムを売りたい」など、子どもたちの「やりたい」がどんどん広がりました。そして、できるかわからないけれど、子どもたちが作ってみたいというジャムを聞くと、その数は40を超えました。まずは作り方を調べ、作って、食べてみよう、2年1組ジャムの旅のスタートを切りました。

味わったトマトジャムを作ってみたいと言う子どもたちと一緒に、早速材料や作り方を調べてトマトジャムを作ってみました。うまくできたというグループもありましたが、多くのグループで水分が多いジャムができ、子どもたちの想像していたジャムとは違ったものができました。みんなの「もう一回作りたい」の声を受け、2回目のトマトジャム作りに挑戦しました。前回のジャム作りの後、振り返りをした際に「砂糖が多すぎた」「レモン汁を入れ忘れた」「水が多かった」などの感想が飛び交い、おいしい『けど』という、何かが足りない、思い描いていたトマトジャムはこれではいけないという思いが強まりました。感想の中で、どのグループにも共通していたことは「水」でした。そこで、今回のリベンジトマトジャム作りでは、トマト自体がもっている「水分」に注目してジャム作りをス





タートしました。ジャムを作り始める前にトマトを絞ってみると、子どもたちにとって予想以上のトマトの「汁」が出てきたのを見て、「水、入れるのやめようかな」「水、もっと少なくてもいいかもよ」と次々と話し始めました。前は目分量で入れていた砂糖やレモン汁も、今回は量を測り、煮詰める時間や湯むきする時間もタイマーで計っていました。ジャムが出来上がり、早速食べてみた子どもたちからは「おいしい」「うま



っ」という声が教室のあちこちから聞こえてきました。どの班も前回よりおいしいジャムができたようです。さらに前は水が多すぎて「スープみたい」と言っていた子どもも「なんかジャムっぽい」「ジャムになったよ」と、とても嬉しそうでした。同じ材料なのに、まだまだ広がる可能性にわくわくしました。子どもたちからは「花丸のジャムだ」「完璧」という声は聞こえるものの、まだ、トマトジャムの可能性も感じているようでした。これから長い1年間のジャムの旅、ジャム作りを通して、様々な活動を子どもたちと考えながら挑戦していこうと思います。



自分たちで育てたものでジャムをつくりたい

ジャム作りを進める中で、自分たちで育てたものでジャムを作りたいという声あがりをはじめました。「やってみたい」「こんなこともできそう」という気持ちがトマトジャムから広がってきました。早速どんなものを育てたいか聞いてみると「桃がいい」「リンゴがいい」とイメージはやはり果物でした。そこで、2年1組前の畑が使えるのは2年生の間だということを伝え、1年間で収穫できるものがよいということに気がつきました。「ドラゴンフルーツがいい」という声には「それって沖縄とかの暖かい所で育つんだよね」とEさん。その言葉で長野県で育てることができるものを選ぶことにも気がつきました。「スイカは春に植えて30～40日で収穫できるからやってみたい」とFさん。「あずきは90日くらいだからできそう」とGさん。植える時期と収穫までにかかる時間を調べながら、育ててみたいものを考えていけばいくほど、一人一人、自分が育てたいものに出会っていきました。そこで、せっかくだから『自分の育てたいものを育てよう』と、中には育てるのが難しそうなものもありましたが、挑戦することに決め、土作りからの畑作りに挑戦することになりました。



毎に挑戦しようとしている人たちは「ハウスが必要らしい」と調べていました。「1年生の時に作ったから作れそう」とHさん。1年生の時の生活科の学習が2年生にも繋がっていました。

毎日の暑さと雨のおかげでどんどん成長する野菜たちを見て「葉っぱが増えている」「つるが伸びた」「実ができた」「実の数が増えた」と、毎朝成長の様子を報告しながら、自分の育てているものの成長を感じていました。また、少し前に「受粉」という言葉をIさんが教えてくれ、メロンやスイカを育てている人たちは、友だちと相談しながら、調べながらやってみていました。そして、つるを1本にするのか、2本にするのか、これもやってみていました。葉っぱとつるをかきわけながら、「これは切ってもいいかな」と友だち同士で確認しながら切っていました。たくさんなりすぎたつるや、葉っぱを「取る」作業は、思ったよりもむずかしかったですが、収穫がとても楽しみです。

